

集落・圃場の条件とイノシシ被害の関係

1. 集落におけるイノシシ被害状況と被害対策

事例対象集落においてイノシシによる農地への被害状況を調査したところ、圃場整備が行われていない小規模・不整形な農地で被害が多発していることが明らかになった。また、防護柵の設置状況を調査したところ、不完全な設置（圃場の全周に設置していない）箇所があり、被害を誘発していることが明らかになった。さらに、イノシシの痕跡調査を実施したところ、イノシシの住みかである森林から農地への侵入ルートがある程度固定されていることも明らかになった（図1）。

2. メソスケールのイノシシ被害状況

農業共済による被害申請に基づき、イノシシによる水田への被害状況を島根県全域において把握した。この結果、被害は隠岐地方および島根半島を除くほぼ全域に及んでいることが明らかになった。また、出雲地方中央部、石見地方中央部などイノシシ被害の中心地域も明らかになった（図2）。

前述したイノシシ被害状況と集落属性（集落人口、高齢者比率、耕作放棄地率等）との関係を比較するため、農林センサスに基づく農業集落単位で属性を提示し、被害地点との関係解明を試みた。研究の結果、両者には明確な因果関係は認められないものの、耕作放棄地の多い集落ではイノシシ被害が多発していることが示唆された（図3）。

3. 地理的条件とイノシシ被害

GIS(地理情報システム)を用いて、25000分の1地図上にイノシシ被害地点をプロットした。谷筋の奥など地形条件の悪い農地においてイノシシ被害が多く発生していることが明らかになった（図4）。

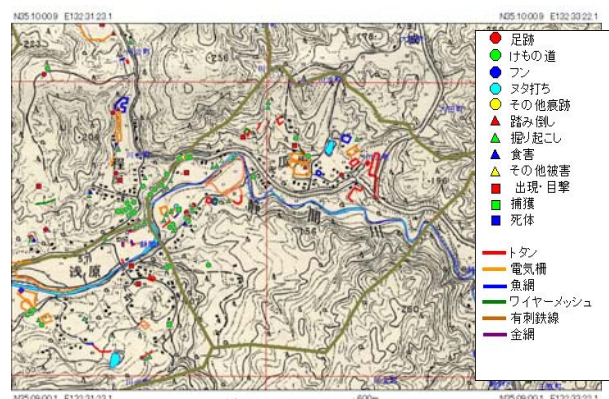


図1. 集落におけるイノシシ被害・痕跡・被害対策の状況

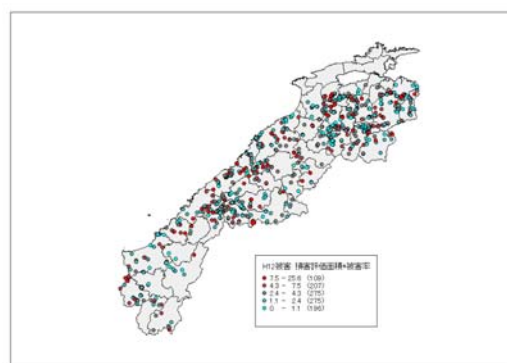


図2. イノシシ被害の空間分布(2000年)



図3. 農業集落別耕作放棄地率とイノシシ被害の発生地点

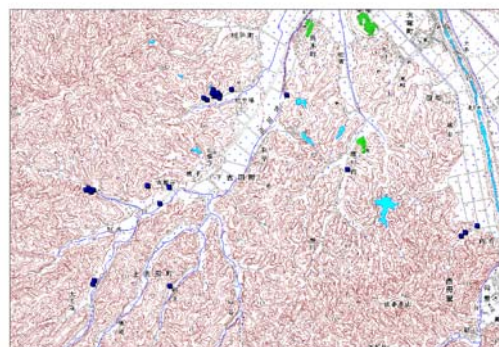


図4. 地形条件とイノシシ被害発生地点

被害対策のポイント

1. イノシシの住みか・進入路は固定化している。

これまでの研究により、イノシシは一定期間（数週間から数ヶ月）同じ場所を埒（ねぐら）とし、そこを拠点として農地へ侵入することが明らかになった。その際、侵入するルートは固定化しているため、侵入ルートを塞ぐなどして集落や農地へのイノシシ自体の侵入を押さえるべきである。

2. 耕作放棄地の集積地域にはイノシシ被害が集中する。

耕作放棄地が集積している地域では、イノシシ被害が多発する傾向にある。山間地域では早くから過疎化が進展したため、耕作放棄地は林地化されている例が多い。近年、標高の比較的低い台地や緩斜面において耕作放棄地が多発しており、イノシシ被害を誘発する要因となっている。

3. 条件不利農地の取り扱いを検討する。

イノシシ被害は谷の奥地や飛び地など明らかに耕作条件が不利な地域で被害が多発している。被害の誘発を防ぐ意味でも、これらの農地を誰が、いつまで、どのように管理するのかについて、農地所有者のみならず集落等の地域で一体的に検討することが重要である。

<課題名> 集落形態・圃場整備等の地理情報システムを利用した被害情報等の生息地理学的解析

<目的> 被害を受ける農家や農地、あるいはそれらを包含する農村とイノシシ被害の関係についてはこれまでほとんど研究がなされてこなかった。

そこで、本研究ではイノシシによる農作物被害の実態を空間的に把握し、その地域的差異を大字単位・集落単位などで解析する。また、被害が発生している地理的条件についてGIS（地理情報システム）を用いて解析する。これにより、被害発生の変因を空間的に明らかにする。

<成果の問い合わせ先>

作野 広和（さくの ひろかず）

島根大学教育学部人文地理学研究室

島根県松江市西川津町 1060

電話 : 0852-32-6107

メール : hsakuno@edu.shimane-u.ac.jp